第３回山形県多文化共生推進プラン（仮称）策定委員会における主な意見等

〇日　　時　　令和７年２月12日（水）13時30分～15時30分
〇開催方法　　オンライン（山形県庁内会場：10階1001会議室）

〇出席委員（五十音順・敬称略、＊：オンライン参加）

＊今泉　智子	山形大学学士課程基盤教育院　准教授
＊大沼　裕子	山形市総務部国際交流センター所長
門脇　エニータ	山形インドネシア協会　事務局
＊日下部　敦子	河北町くらし応援課長（兼）若者・女性・町民総活躍推進室長
笹原　智子	在山形ベトナム人協会　代表
＊佐藤　幸	（公財）出羽庄内国際交流財団　事務局次長
＊重野　聡	山形労働局職業安定部長
鈴木　仁	（公財）山形県国際交流協会　常務理事（兼）事務局長
＊髙野　邦夫	山形県中小企業団体中央会　理事
田中　照夫	モガミフーズ株式会社　取締役
＊チィン ティ トゥイ	東北パイオニア株式会社　副主事
＊福島　彩子	山形県青年国際交流機構　会長
＊山脇　啓造	明治大学国際日本学部　教授　　**※委員長**

〇意見交換事項
山形県多文化共生推進プラン(案）について

〇事務局説明に係る質疑応答
【佐藤委員】
・　４ページの施策の柱３「医療」に「①医師会等と連携した外国語で受診ができる医療機関の拡大、WEBサイト等による積極的な情報発信」とあるが、外国語で受診できる医療機関を拡大するのは、とても難しいと思う。具体的にどのようなイメージで進めるのか。
【医療政策課課長補佐（総括・医務企画担当）】
・　外国人患者を受け入れられる医療機関は厚生労働省のサイトに公表されており、県内では現在、33の医療機関が受け入れ可能と登録されている。登録拡大に向けては、各医療機関に向けて例年呼びかけを行っている。

〇各委員の意見要旨（発言順）
【トゥイ委員】
・　海外の企業・大学等とのマッチングの支援活動も検討いただければ外国人材はより豊かで質の高い人材になる。最近、多くの日本企業がベトナムの大学と連携して、最終学年の学生を対象とした交流活動や就職活動、面接を実施している。特に工学やインフォメーション技術分野は多い。特定国や他の分野も拡大すれば、多くの外国人材や企業が参加するようになると思う。

・　企業が市町村や各国際交流団体と連携して日本語を教えたり、生活支援ができるようになったらいいと思う。特に、仕事で参加が難しい方にはオンラインの授業も拡大が必要である。また、日本語を教える方が、資格の有無に関わらず不足しているので、増やす活動があればよい。
・　個人的ではあるが、婚活の問合わせも最近増えている。日本でずっと働いていて結婚する方も増えているので、そちらの支援も検討いただければと思う。
・　今回、外国人住民アンケートを実施したが、外国人から日本に求めることだけではなく、日本人が外国人に何を求めるかについてもアンケートを実施した方がいいと思う。

【今泉委員】

・　全体的に様々な分野での支援が盛り込まれているが、支援だけではなく、外国出身者が主体的に社会に参画することを促すという要素が取り入れられるといいのではないか。「目指す姿」に、外国出身者が県民として活躍できるということがあるので、外国出身者を助けてあげるという方向だけではなくて一緒に作り上げていこうという姿勢が大事である。
・　生活情報や災害防災情報も外国人同士のつながりとか、キーパーソンになる人が中心になるとより普及が望める。外国出身者の意見がきちんと吸い上げられるような体制づくりがもう少し盛り込まれるとよいのではないか。
・　施策の柱３の「情報提供」にある点線で囲んだ国際交流サポーターやコミュニティ通訳の注釈を見ると、日本人住民だけを想定しているように見える。外国出身者もサポーターになりうる。重点プロジェクト「③多文化共生の担い手の連携推進」でも何となく日本人だけと読み取れてしまう。施策の柱でいうと４か３だと思うが、全体的に施策の柱４の施策が少なめなので、「外国出身者の方の参加を促す体制づくり」が入ってもよいのではないか。
・　施策の柱４の「④日本人の誰もが外国人と簡単なコミュニケーションが図れるように初歩的な外国語を学ぶ機会の充実」について、この初歩的な外国語は何語なのか。色々な言語を多文化共生や相互理解のイベントの一環として学ぶことはとてもよいことだと思うが、施策として取り上げる必要性があるかというと疑問である。
・　日本人は、次の⑤にある「やさしい日本語」を使って、自分の母語である日本語を外国人にもわかりやすく調整できるようになる方がより現実的でコミュニケーションを促進できるのではないかと思う。
・　子どもの支援に関して、施策の柱３の「教育」の②に含まれているとは思うが、就学状況の把握や保護者への就学進学情報の提供も重要である。例えば、その上の「情報提供」の①に住民登録手続きの機会などを活用した生活オリエンテーションとあるが、このときに学齢期の子どもがいたら受け入れ学校と教育委員会が情報共有して、できれば専門のコーディネーターが日本語の支援が必要かを判断して支援に入るというような仕組みができるとよい。そこまで必要かと思われるかもしれないが、子どもは未来であり、外国人の子どもも県民なので、外国人の子どもが活躍できるように就学・進学の情報やキャリア支援に関する情報なども提供していけたらと思う。

【大沼委員】

・　施策の柱１「（２）若者のアウトバウンドの促進」とあるが、インバウンドだけでなく、

アウトバウンドも大事であり、山形市としても重点的に考えていくので協力させていただきたい。

- 重点プロジェクト「④県立高校における多文化共生社会への対応」について県立高校に限らず、山形市立や私立の高校もあるので、同じように機会を与えていただきたい。
- 重点プロジェクト「①モンゴルからの人材受入推進」について、こういったところの推進も必要と思うが、人数が多い外国人の方への支援も重点的にするべきだと思う。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

- 県立高校の取組み例を県内全域に普及させていく。重点プログラムは短期的に重点的に取り組むものとして考えている。当然、人数の多い外国人の方への支援は重点的にやっていく。

【門脇エニータ委員】

- 重点プロジェクト「①モンゴルからの人材受入推進」とあるが、このように県で特定の国の受入を打ち出して、企業にそのような話が回ってくると、他の国は現場で困ることがでてくるという声を聞く。
- 先ほど話のあった「医療」について、英語と振り仮名、「やさしい日本語」を活用するのも一つの方法だと思う。ただ、大変かもしれないが、より多くの言語に対応できるようするのが理想的ではある。
- ベトナム人が一番多いのに、相談窓口などでは、いまだに中国語や韓国語が一番上に書いてある。中国の方は人数が多いが、結婚している人が多く、配偶者に支援してもらえる。ベトナム人やインドネシア人は単身で働きにきていて頼る人がいないのでインドネシア人向けの相談窓口を作ってほしい。
- 宗教について、外国人人口が増えて、イスラム教の方が増えてきている。特に東京など都会が多いが、今のところ特に問題は起きていない。近い将来、山形でも宗教の多様性が進むと思われるので、宗教はデリケートな部分もあって誤解を防ぐためにも、イスラム教について少し理解を深めておくとよいのではないか。

【山脇委員長】

- 重点プロジェクト「①モンゴルからの人材受入推進」について、他の外国人コミュニティにとってネガティブな影響が及ぶのではないかという懸念、また、多言語相談窓口で、新しく増えている外国人の言語に対する配慮が必要ではないかという指摘について回答いただきたい。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

- 企業が進める人材受入を特定の国に整理して優遇する意図ではない。これからどんどん外国人が増えていく中で、より優秀な方を受入れていくためには、今までの国以外も考えなければならない。そうしたときに、企業の方々が単独でよく知らない国に働きかけるのは難しいということで、まずモデル的に取り組むということなので御理解いただきたい。
- 多言語相談窓口については、外国人総合相談ワンストップセンターにベトナム語の相談員を配置し、月２回対応しているが、人口の伸びに比して相談件数は増えていない。今まで御意見をいただいたように、相談窓口よりもSNSといった外国人のネットワークで解決されている部分も大きいのではないかと考えている。

【日下部委員】

・　河北町でも就労で、町に転入される方が大変増えている。今までは、国際交流部門、教育部門、子育て部門、商工部門がそれぞれ対応していたが、今回のプランをきっかけに庁内横断的に連携して支援をしていくことが可能になると考えている。

・　地域の日本人の方からの「こういったことに外国人の方も参加していただける」、「こういったところであれば外国人の方も協力していただける」というような情報発信が大事だと考えている。今後意識しながら施策を進めていきたい。

・「やさしい日本語」も自治体でもまだまだ浸透していないので、活用を進めていきたい。

【笹原委員】

・　私たちの取組みの情報を掴みやすく、「見える化」して何らかの形で外国人の方に情報提供していただければ助かる。

・　山梨県でLINEのオープンチャットを使って県内のオンラインセミナーや地域日本語教室のお知らせなどの情報を発信している。掲示板のようなイメージで、私も１回入ってみたが、日本人と外国人が相互に情報発信をしていた。こういったものを県が管理していただけると安心できるSNSの使い方になるのではないか。山梨県に話を聞いてみてほしい。今は300人ぐらい登録されているようである。

【山脇委員長】

・　今後、外国人県民も含めてプランを周知していくという視点からの情報発信の大事さという指摘だったが、どのような取組みを予定しているか。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

・　基本的には県のホームページで情報発信をしていきたい。また、マスコミの方々にも協力いただきながら周知をしていきたい。

【佐藤委員】

・　笹原委員からお話のあったオープンチャットについて、当財団でも来年度からスタートしようと考えている。普段の情報発信に加え、災害時などの利用も研究してみたい。

・　当財団では、今年度、県から日本語教育総括コーディネーターを受託して、県内の色々なところに行ってお話を伺ったが、市町村によって在住外国人に対する意識が全然違うということがよくわかった。「県でモデル事業などにより方向性を示してもらえると動きやすい」、「一つの市町村単独では動きにくいが、近隣の市町村と共同・横断的にその事業ができればいい」という話がよくあった。

・　今泉委員から意見があったが、外国人の方を一方的に支援するというよりは、一緒に活動していくというスタンスがとても大切である。先日、集住地域の支援団体の報告会を聞く機会があった。子どもや住居の問題について、外国出身の方の目線が入ることでよりよい課題解決に向かっていた。

・　事務局の説明で「やさしい日本語」の作文コンテストで寒河江の高校生が全国で最優秀賞を受賞したとの紹介があったが、私も作文を読ませていただいた。探究型学習の中で「やさしい日本語」と出会ったとあった。当財団の相談窓口にも中学生や高校生から探究活動の課題研究で「やさしい日本語」を取り扱いたいという相談が増えている。「学校における異文化理解」といった取組みもプランに盛り込まれているが、「やさしい日本語」という切り口も一つあるのではないか。

・　プランに具体的には盛り込まれていないが、30年前から配偶者として地域に住んでいる方たちの介護や遺産相続の問題など、今までなかった問題が出てきている。こういったことにも対応できるような支援も必要なのではないか。
・　今泉委員から意見のあった、施策の柱４の「④日本人の誰もが簡単なコミュニケーションが図れるように初歩的な外国語を学ぶ～」について、私もプランに入れるべきなのかどうか疑問に思う。

【山脇委員長】

・　冒頭に質問された「医療」の問題はどうか。

【佐藤委員】

・　私は、「外国語で受診ができる」というのを医師や看護師が外国語を話せることを想定しており、それは拡大するのが難しいのではと思ったが、潜在的にできるのに数として上がってないところを拡大するという方向なのだと理解した。

【山脇委員長】

・　今泉委員と佐藤委員からプランに盛り込むべきか疑義のあった、日本人県民の外国語学習について事務局の考えはどうか。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

・　外国語を少しでも学ぶことにより、その国に対して親近感が増し、相手を理解するという意識の醸成につながると考えて盛り込ませていただいた。

【山脇委員長】

・　これは県の事業としては具体的にどういう形で展開される想定なのか。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

・　外国人の留学生や地域で働いている方に講師役になっていただくことを考えている。

【山脇委員長】

・　外国人県民の方に講師として活躍していただこうという狙いもあるということだが、今泉委員、佐藤委員、いかがか。

【今泉委員】

・　「簡単なコミュニケーションが図れるように」ということが目的として書かれているので、相互理解の一環として行うということを示せばよい。

【佐藤委員】

・　外国の方の活躍の場という意味も込めて、わかるように書いていただければよい。

【山脇委員長】

・　委員からは、外国人住民は一定程度日本語ができるので、日本人住民は外国語でコミュニケーションが取れなくてもいいのではないか、日本人住民が「やさしい日本語」を使える方が重要ではないか、という指摘があったが、事務局としては、日本人住民が相手の文化や言語を尊重するという目的で色々な言語を勉強する機会を取り入れたいと理解した。ここに盛り込むとすれば、相互理解のために相手の言語や文化を学ぶ機会を増やすという書き方の方がよいのではないか。

【重野委員】

・　先日、私ども山形労働局で公表した令和６年の外国人雇用状況報告では、県内の外国人の労働者、事業所数ともに過去最高の水準になっている。国別に見ても、新たな国が増え

てきている。円安の局面ではあるが、相対的な賃金の高さに加えて、安全面や住みやすさという観点から引き続き、海外から見ると、国内で生活することのメリットが多いのだろうと考えている。

- このような中でさらに外国人の受入を進めていくに当たっては事業所側に外国人の受入への御理解を促していくことが必要であると考えている。特に、これまで外国人雇用をしたことのない事業者にヒアリングをすると、外国人の雇用を考えたこともない、今後も予定していない、どう進めていけばいいかわからない、というところがまだまだ多い。まずは興味を持ってもらうこと、最終的には雇用まで結びつけるということが大事なので、今回お示しいただいたプランの着実な実施、特に「外国人材採用支援デスク」が窓口になった、様々な支援をよろしくお願いしたい。
- 外国人労働者がそれぞれのネットワークを持っているので、その中で情報発信をしていくことも重要と考えている。今回のプランの中で、外国人コミュニティと連携した情報発信を新たに盛り込んでいただいたが、こうした取組みが非常に効果的だと考えているのでぜひ進めていただきたい。

【鈴木委員】

- プランについて、いかに実効性を高めるかということが大事である。前回、山脇委員長からもお話あったが、山形県の場合、県の役割が圧倒的に大きい。県がまず動き始めて、そして周りを巻き込んで、取組みをさらに増やし幅を広げていくということが重要である。先ほどの重点プロジェクト④の県立高校から始めるというのは、まさにこうしたことと受け取っている。
- 進捗管理に、施策の点検評価、必要に応じた計画の見直しが盛り込まれているが、2027年に予定されている育成就労制度への移行は施策にも大きな影響が予想される。育成就労や高度人材が増えれば、家族の帯同が増え、家族向けの施策をどのように充実していくかということが今後の大きな検討課題であり、見直しが必要になるのではないか。
- 日本語教育は企業にどのように関わってもらうかが大事だが、一方で自治体と企業はあまり近い関係ではなくて、銀行や信金など金融機関につなぎ役になってもらうことを期待したいという話をセミナーでお聞きした。取組みにあたっては、こうした面も踏まえて連携を進めていただきたい。

【髙野委員】

- 佐藤委員から「医療」の部分でお話があったが、外国語で受診できる医療機関を増やすというのは中々難しいので、その場で対応してもらえるような、オンラインや電話の通訳を集中的にどこかでやっていただければいいのではないか。
- アンケート調査で外国人の要望を前もって調べてそれに応える形になっているが、「外国人だからこうだ」という型にはめすぎないようにしてほしい。その場で話を聞きながら対応していくのが大事であり、中々難しいところなので、相談窓口などの体制を整えてほしい。
- 山形県中小企業団体中央会という立場で意見を述べさせてもらったが、日本は外国人材受入の体制がまだまだ規制に捉われており、受入れしにくい。もちろん全体的には増えているが、もっと「すっと」楽に入れるような方向を国の方に進言していただきたい。

【山脇委員長】

・　プランの中に、外国人雇用事業者のヒアリングの結果が載っているが、内容に中小企業の皆様の声が反映されていると受けとめてよいか。

【髙野委員】

・　このような内容でよい。

【山脇委員長】

・　冒頭に「医療」の関連で、通訳派遣のセンターのような仕組みづくりという御意見をいただいた。他県ではそのような事例もあるが、山形県ではどうか。

【医療政策課課長補佐（総括・医務企画担当）】

・　本県ではそのような仕組みはない。他県の先進事例など研究して検討してまいりたい。

【山脇委員長】

・　医療通訳は、どの県も頭を悩ませている大きな課題である。ぜひ他県の事例も参考に、山形にふさわしい仕組みを作っていただきたい。

【田中委員】

・　外国人雇用事業者のヒアリングにもあったが、住まいの問題は技能実習生・特定技能を雇用する企業にとっては結構大きな課題になっている。施策の柱２と３のそれぞれに住宅に関わることが盛り込まれているが、ぜひ推進していただきたい。外国人を雇用している事業者が増えてきて、交通手段がなく、自転車か徒歩の範囲内で住居を用意するとなると不足しているというのが実態としてある。河北町では、一昨年秋に町営アパートを企業も借りられるようにしてくれたが、他地域でも同じような状況であると思うので公営住宅の活用を広げてほしい。

・　先ほど寒河江高校の「やさしい日本語」作文コンテストの紹介があったが、受賞した高校生が見学に来てくれたのは弊社の日本語学習の取組みである。４人のチームで探究活動を行っており、活動の締めくくりに餅つきイベントを開催した。私どものベトナム人の実習生と高校生が合わせて30数名参加し、日本の餅を食べたり、けん玉遊びを一緒にしてくれた。最初こそぎこちなかったが、「やさしい日本語」を使って、普通に若者同士の遊びで非常に盛り上がっていた。普段外国人の方と触れ合う機会が少ない日本人の高校生にとっても、会社以外の日本人と交流したことのないベトナム人にとっても、若い同年代同士で交流できたことは有意義だったと思う。他の地域でも取り組むことができると思うので、ぜひ進めていただきたい。

【山脇委員長】

・　一つ目の住居は重要な問題だが、田中委員は県の役割として具体的な提案はあるか。

【田中委員】

・　先住の近隣住民の方の理解促進について、企業がしっかりしていく必要があるが、県からサポートしてもらえればありがたい。

【福島委員】

・　施策の柱１の「国際交流・国際協力の推進」で、重点プロジェクト④にもなっているところだが「学校と国際交流団体等のマッチング支援」について期待している。私どもの団体に来年度４つの海外訪問団から学校訪問の希望が入っていて、今、ピンポイントで先生を捕まえて学校への訪問依頼を入れているところである。県で組織的に受入学校を調整い

ただければ、４月の人事異動に関わらず海外からの訪問団を学校で受け入れることができ、交流が明るく発展していけるのではないか。

- 学校での社会科見学等で、外国人労働者が働いている企業への訪問も取り入れていただければと思う。私たちの社会は、日本人だけではなくて、海外の方が一生懸命仕事をしているということを小さな頃から、高校生になる前から認識しておくということは多文化共生のスムーズな実現につながっていくのではないか。
- 同じく施策の柱１の「（２）若者のアウトバウンド促進」もよいと思う。日本人住民向けのアンケート結果を見ると、「やさしい日本語」の認知が低く、外国人の方たちの受入れに「どちらともいえない」という方が33％となっており、まだまだウェルカムな状態ではない。若者たちが海外に出ることで、言葉が通じないつらさ、物を買うにも大変だという経験をすることが将来、山形が外国人でいっぱいになったときに、互いの理解につながっていくと思う。
- 他の委員の方からも指摘があったが、外国人の方に主体的に活躍していただこうというのは、私も非常に大賛成で、外国人が地域交流の担い手のキーパーソンになっていくと考えている。今日の山形新聞の一面に、トリニダード・トバゴ出身のALTの方が上山市の加勢鳥になって活躍をしているという記事が掲載されている。彼は私どもの活動で運営側になって手伝いをしてくれたこともある。このようにメディアで発信をされると、日本語を頑張って日本人と交流していこう、自分も県の中で活躍したり、何か言葉を発信できるような立場になっていこうという外国出身者の方の頑張りの後押しになるのではないか。
- 関連して、今回多言語で外国人住民を対象にアンケートを実施されたが、私がアンケートへの協力をお願いした際にとても喜ばれた。外国人の方も自分たちの声をどこに届けていいかがわからない。多言語でアンケートがなされることで自分の意見を出していいのだということを認識できる、そんなふうに言っていた方もいた。質問項目の一つに例えば、山形でどんなことを実現したいですか、山形でこれから自分がやってみたいこと、そんなことを聞くような文言を入れていくと、そのときは答えられなくても、また来年このアンケートがある、来年のアンケートにはこういうことを書いてみようかな、そんなふうに自分の声を届ける具体的な場所になっていくと思う。
- 出生率と未就学児の人数をデータに入れていただき、ありがたい。出生率も少しずつ増えており、外国人の方々が出産・子育てという部分でサポートをますます必要としてくるなと認識している。
- 笹原委員からオープンチャットの話題が出たが、私どもが昨年末から開催している多文化子育てカフェではオープンチャットが大活躍している。最近ではオープンチャット内にいる外国人のお母さんが「少年自然の家のスノーチューブ滑りに行くんだけど誰か行きませんか」と発信して、６人一緒に集まってみんなで雪遊びをしたなんていうような事例も出ている。まだまだ20人ぐらいの小さなコミュニティなので参考になるかわからないが、活用させていただいている。

【山脇委員長】

- 最近ソーシャルメディアはネガティブな話題やニュースが多いが、オープンチャットの活用事例としてポジティブなお話が聞けてよかった。外国人住民に対するアンケートを定期的に実施してほしいという要望もあったが、今後の展開はどうか。

【国際人材活躍・コンベンション誘致推進課長】

・　アンケート調査は、毎年は予定していないが、御意見を踏まえて検討していきたい。

【山脇委員長】

・　冒頭で話題になった外国人県民を支援するだけでなく、一緒に地域づくりを担っていくという観点を打ち出してほしいというのは私も同意見である。この委員会にも外国ルーツの委員の方が２名参加しているというのは、とても重要なことである。県の審議会などでも委員の中に外国人県民の方にも参加していただくことを今後さらに推進していただきたい。

・　情報発信についても話題になったが、他県では多文化共生のポータルサイトを県が作って、色々な取組みを発信したり、共有したりしているので、山形県でもできるとよいだろう。

・　山形県の場合は、県の役割が大きくて市町村に対するサポートを期待していると前回述べたが、県国際交流協会も県と一緒に手を合わせて、色々機動的に県内各地を動いてサポートしていただきたい。

・　「やさしい日本語」の作文コンクールで最優秀賞を受賞した高校生は本当にすごいと思った。今回、重点プロジェクトに高校における取組みも入っているので、この取組みを他の高校にも情報発信して広げてほしい。

【山脇委員長】

・　全員に御意見をいただいたが、他の委員の意見を聞いて、追加で御意見あれば受け付けたい。

【今泉委員】

・　プランに直接関わることではなくて一つ提案させていただきたい。重点プロジェクト④について、企業との連携だけではなく、地域の日本語教室と連携して高校生が日本語教室に見学に行ってそこで交流してはどうか。もちろん高校生だけではなくて小中学生でもいいと思う。日本語教室側は学習支援者が足りなくて困っているので高校生に来てもらえるとすごく盛り上がってよいと思う。プロジェクト③の多文化共生のイベントについても、先ほど田中委員が紹介された例があるので、高校生に参画してもらってもよいのではないか。

【山脇委員長】

・　私はいくつかの自治体のプラン策定に関わってきたが、重点プロジェクトとして高校あるいは高校生に着目しているのは、他県にない取組みである。今の御提案を踏まえて、今後、具体的な事業に取り組んでいただきたい。

・　今回、委員の皆様からはプラン（案）をほぼ認めていただいたと思うが、議論になった施策の柱４の④の外国語学習のところは、事務局で改めて検討いただいて、その結果について委員の皆様に確認の機会を取っていただきたい。他の細かい文言の微調整は私の方に一任していただきたい。